

骨関節炎（OA）に罹患した伴侶動物の 加速度センサを用いたモニタリング

一戸登夢（附属動物病院）、久世明香（伴侶動物）、青木卓磨（小動物外科）、永澤美保（介在動物）、菊水健史（介在動物）

研究の背景

- 骨関節炎（OA）は犬猫で一般的な関節炎であり、成犬の約20%、成猫では60%以上で罹患している
- OAは関節全体に炎症プロセスが生じ、不可逆的変化が起きる慢性進行性疾患で、早期発見が重要である
- OAの症状悪化は漠然としており、特に動物病院という慣れない環境では、検出出来ないことがある
- 診断や治療の効果検証に、飼い主への質問票が有用ではあるが、客観性には疑問符がつく
- 日常生活での、客観的な症状の効果判定が必要



健常犬と両側股関節OAに罹患した犬（15歳、イングリッシュ・セッター）のX線画像

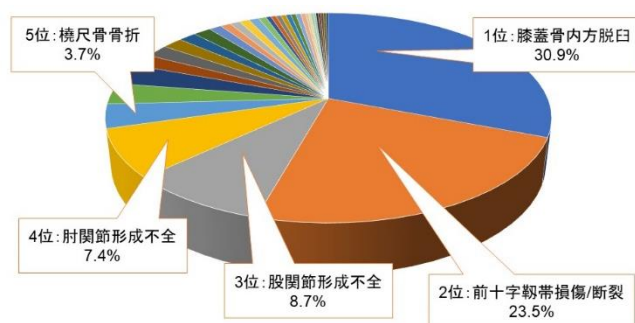
アプローチ

□ OA罹患犬・猫に小型ビーコン（活動量を計測する加速度センサ）を装着
→スマートフォンアプリでデータを取得（クラウドサーバ経由）

□ 以下のような条件を比較検証する

- ✓ 飼い主への質問票とビーコンのデータ比較
- ✓ サプリメント使用の有無の比較
- ✓ 運動制限の程度の比較
- ✓ マッサージやリハビリの条件を変えての比較、など

□ 獣医療関係者・飼い主へのフィードバックし、治療やコミュニケーションの改善に役立てる



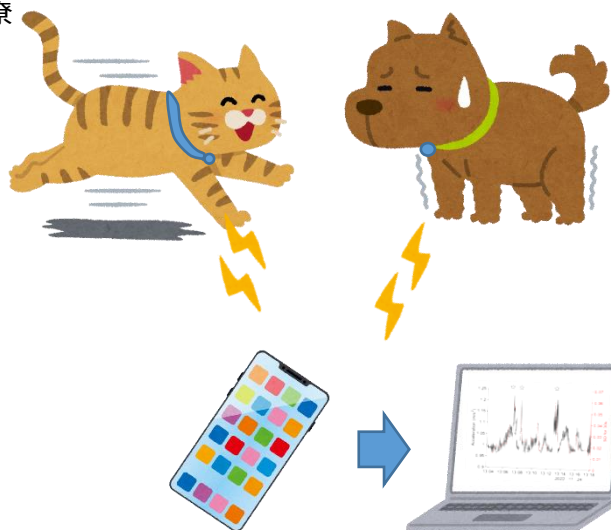
期間：2018年4月～2023年4月末
対象：整形外科を受診したイヌの症例

1位～4位：OAに至る疾患

麻布大学附属動物病院整形外科
来院理由（2018年～）

期待される結果

- 飼い主への質問票が有効かを再検証できる
- OAへのサプリメントの有効性評価を行える
- OA罹患動物の適切な運動量の検証を行える
- マッサージやリハビリなどの理学療法の有効性検証を行える
- 獣医師/動物看護師と飼い主との重症度に対する認識の差異の是正に繋がる（より良い獣医療へ繋がる）



募集方法

- 学部や学科を問わず、1～2名程度募集します。
- 附属動物病院整形外科を受診されている骨関節炎に罹患した患者さんと飼い主様にご協力をお願いします